

館山市市民アンケート調査<<速報>>

1 調査の設計

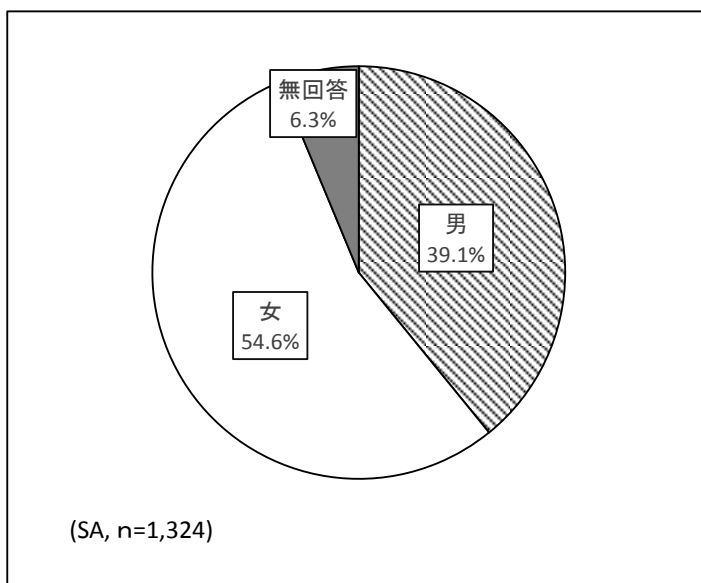
調査対象	16歳以上の市内在住者
標本数	3,000人
抽出方法	住民基本台帳から抽出
回収数(率)	1,324人(44.1%)
調査方法	郵送配付、郵送回収
調査期間	平成26年8月11日～9月1日

2 調査結果

(1) 回答者プロフィール

① 性別

男性が39.1%、女性が54.6%と、女性が半数を超えた。



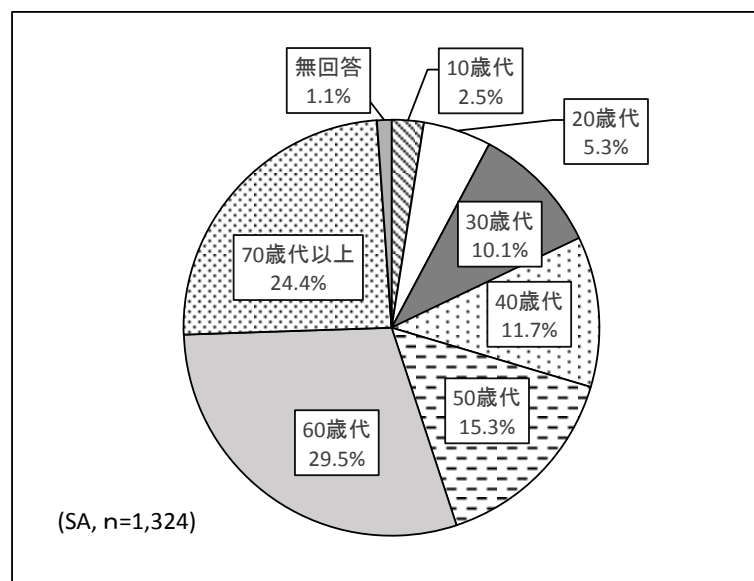
<参考：配付数と回答数の内訳>

性別	配付数	回答数	回答率
男性	1,466	518	35.3%
女性	1,534	723	47.1%
合計	3,000	1,241	

(無回答 83)

② 年代

60歳代が最も割合が高く29.5%、次いで70歳代が24.4%、50歳代が15.3%となり、60歳以上が半数を超えた。



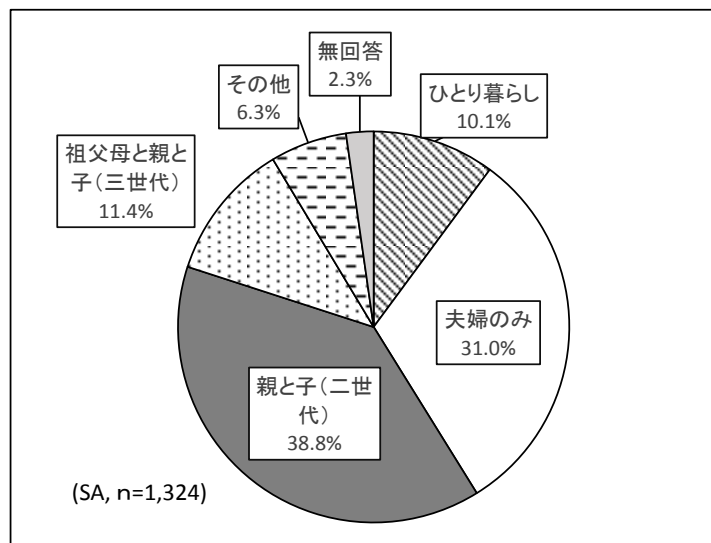
<参考：配付数と回答数の内訳>

年代	配付数	回答数	回答率
10歳代	131	33	25.2%
20歳代	274	70	25.5%
30歳代	417	134	32.1%
40歳代	468	155	33.1%
50歳代	450	203	45.1%
60歳代	710	391	55.1%
70歳代以上	550	323	58.7%
合計	3,000	1,309	

(無回答 15)

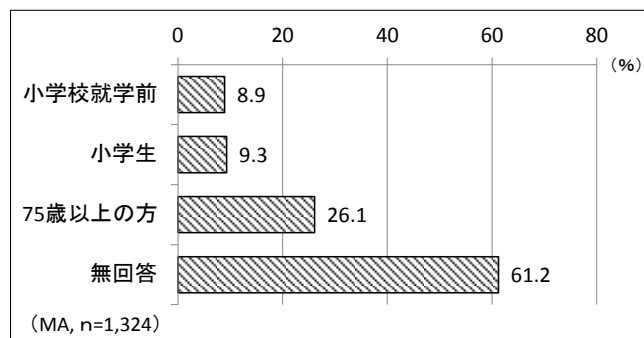
### ③ 家族構成

「親と子の二世帯」が最も割合が高く 38.8%、次いで「夫婦のみ」が 31.0%となった。



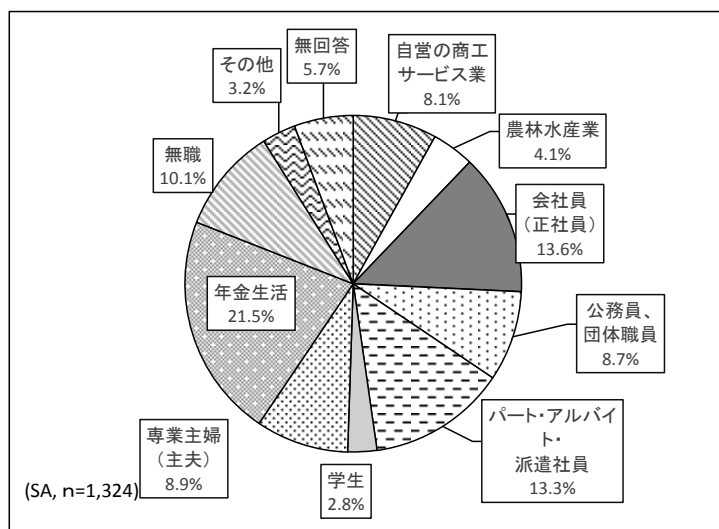
### ④ 子どもや高齢者との同居

回答者のうち、「就学前の子ども」同居している者は 8.9%、「小学生」との同居は 9.3%、「75歳以上の方」との同居は 26.1%となった。



⑤ 職業

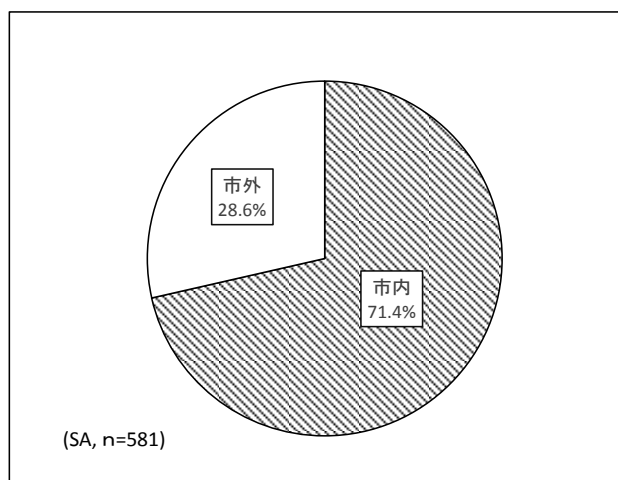
職業は、「年金生活者」が最も割合が高く 21.5%、次いで「パート・アルバイト・派遣社員」が 13.3%、「会社員（正社員）」が 13.6%となった。



⑥ 通勤・通学

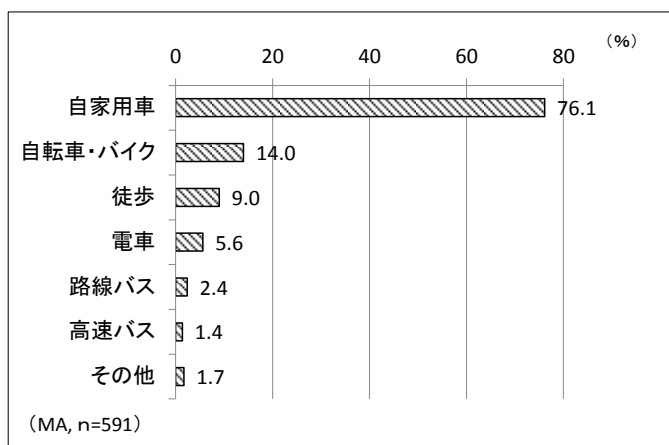
通勤・通学している回答者の通勤・通学先は、「市内」が 71.4%、「市外」が 28.6%となった。

※回答記入者のみ集計



通勤・通学の手段は「自家用車」（76.1%）に回答が集中しており、「電車」（5.6%）、「路線バス」（2.4%）は少数だった。

※回答記入者のみ集計



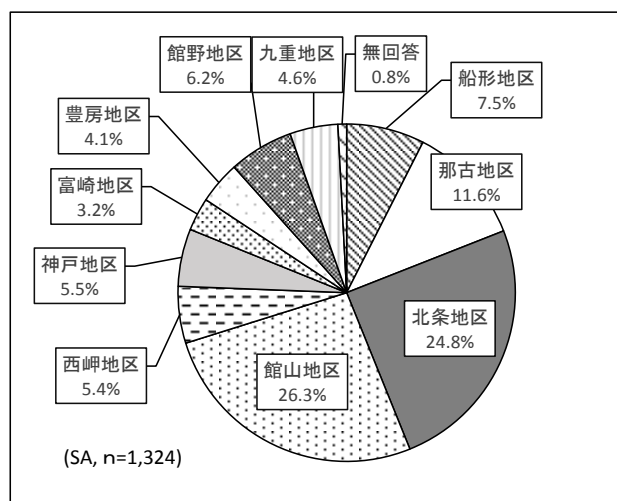
通勤先については、市外では南房総市が最も多く、次いで鴨川市、木更津市となった。市外の通勤先は周辺市町（南房総市、鴨川市、鋸南町）で56.6%を占めるが、千葉市や東京都、埼玉県、神奈川県などの長距離通勤者も15.0%みられる。

※回答記入者のみ集計

通勤先	件数	割合(%)
南房総市	58	34.9
鴨川市	26	15.7
木更津市	19	11.4
千葉市	13	7.8
鋸南町	10	6.0
東京都	9	5.4
君津市	7	4.2
富津市	6	3.6
神奈川県	2	1.2
市原市	1	0.6
市川市	1	0.6
埼玉県	1	0.6
房総	1	0.6
茂原市	1	0.6
無回答	11	6.6
回答計	166	100.0

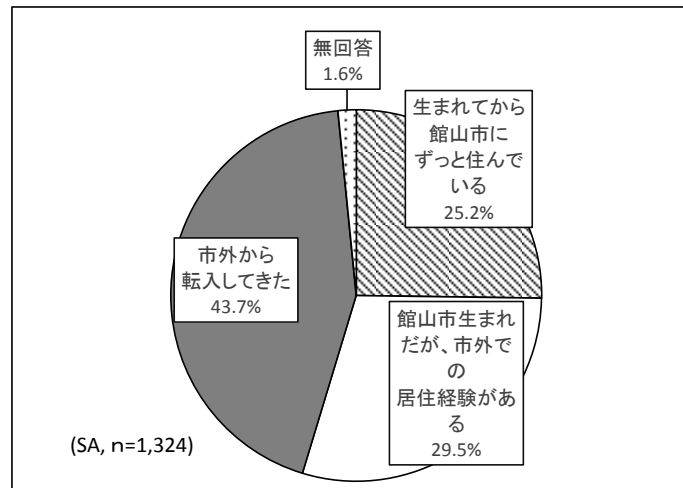
### ⑦ 居住地区

居住地区は、「館山地区」が最も割合が高く26.3%、次いで「北条地区」が24.8%、「那古地区」が11.6%などとなった。最も割合が低いのは「富崎地区」(3.2%)となった。

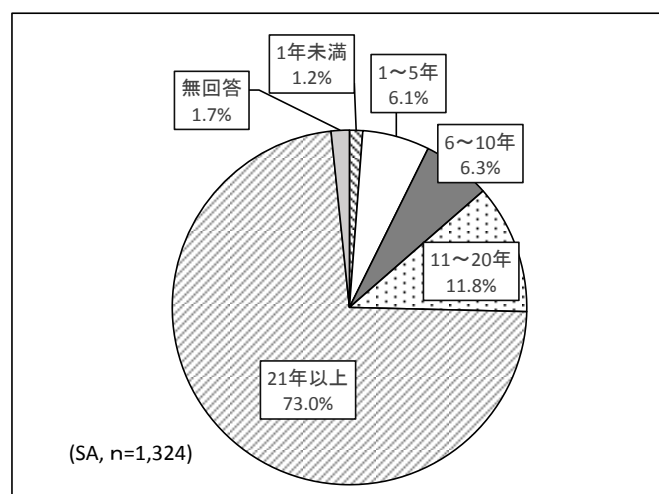


### ⑧ 居住状況

居住状況は、「市外から転入してきた」が最も割合が高く 43.7%と半数近くを占めた。また「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」と回答した、いわゆるUターンした者の割合は 29.5%となり、「生まれてから館山市にずっと住んでいる」(25.2%)を上回った。



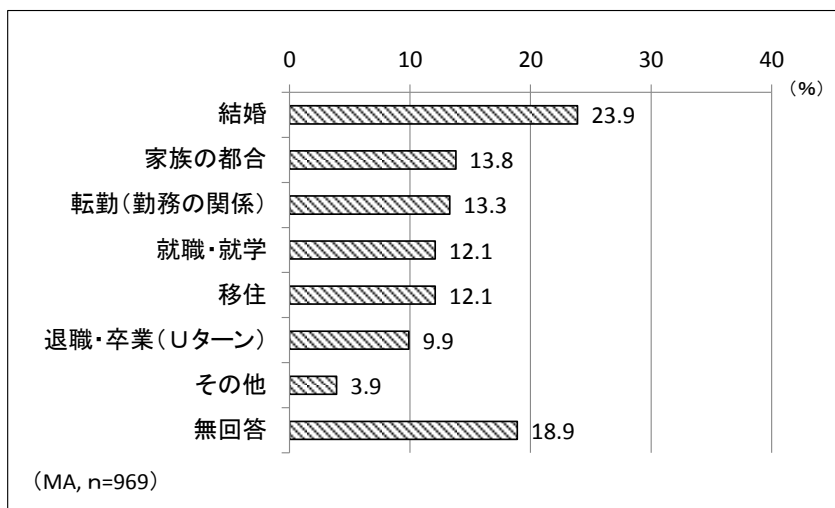
居住年数は「21年以上」が最も割合が高く 73.0%となった。



⑨ 転入理由

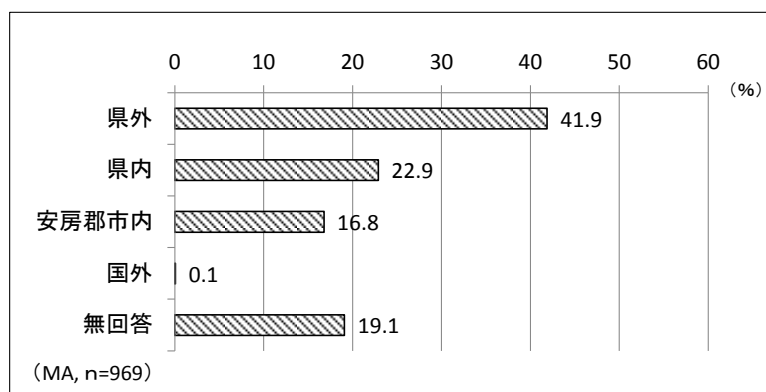
転入理由は、「結婚」が最も割合が高く 23.9%となったが、その他はほぼ同じくらいの割合であり、「移住」も 12.1%となった。

※転入者のみ集計



⑩ 転入以前の居住地

転入以前の居住地は「県外」が最も割合が高く 41.9%となり、次いで「県内」(22.9%)、「安房郡市内」(16.8%)となった。



以前の居住地は、安房郡市内では「南房総市」が最も多く、「鴨川市」、「鋸南町」が続いている。県内では「千葉市」が最も多く、「船橋市」、「市川市」、「君津市」、「柏市」が続いている。県外では東京都が最も多く、「神奈川県」、「埼玉県」が続いている。

※回答記入者のみ集計

<安房郡市内>

以前の居住地	件数	割合(%)
南房総市	123	78.8
鴨川市	16	10.3
鋸南町	9	5.8
館山市	8	5.1
計	156	100.0

<県内>

以前の居住地	件数	割合(%)
千葉市	58	28.2
船橋市	19	9.2
市川市	18	8.7
君津市	14	6.8
柏市	14	6.8
富津市	13	6.3
木更津市	11	5.3
市原市	9	4.4
松戸市	7	3.4
習志野市	6	2.9
佐倉市	4	1.9
流山市	4	1.9
いすみ市	4	1.9
勝浦市	3	1.5
成田市	3	1.5
四街道市	2	1.0
野田市	2	1.0
袖ヶ浦市	2	1.0
旭市	1	0.5
印西市	1	0.5
印旛	1	0.5
浦安市	1	0.5
鎌ヶ谷市	1	0.5
御宿町	1	0.5
富里市	1	0.5
山武市	1	0.5
酒々井町	1	0.5
東金市	1	0.5
白井市	1	0.5
八街市	1	0.5
茂原市	1	0.5
計	206	100.0

<県外>

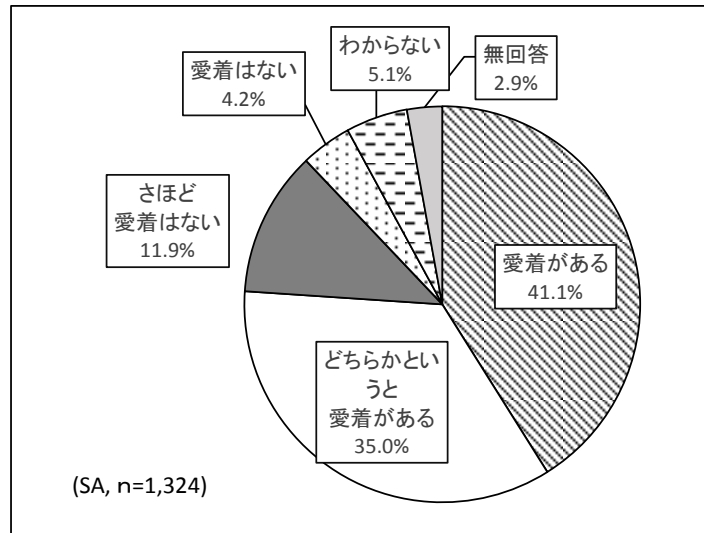
以前の居住地	件数	割合(%)
東京都	184	47.7
神奈川県	86	22.3
埼玉県	36	9.3
広島県	8	2.1
茨城県	6	1.6
京都府	5	1.3
新潟県	5	1.3
大阪府	5	1.3
栃木県	5	1.3
宮城県	4	1.0
山梨県	4	1.0
長崎県	4	1.0
長野県	4	1.0
愛知県	3	0.8
岩手県	3	0.8
鹿児島県	3	0.8
青森県	3	0.8
静岡県	3	0.8
三重県	2	0.5
福岡県	2	0.5
北海道	2	0.5
沖縄県	1	0.3
群馬県	1	0.3
高知県	1	0.3
山口県	1	0.3
秋田県	1	0.3
石川県	1	0.3
徳島県	1	0.3
富山県	1	0.3
兵庫県	1	0.3
計	386	100.0



### 3 館山市のイメージや将来像について

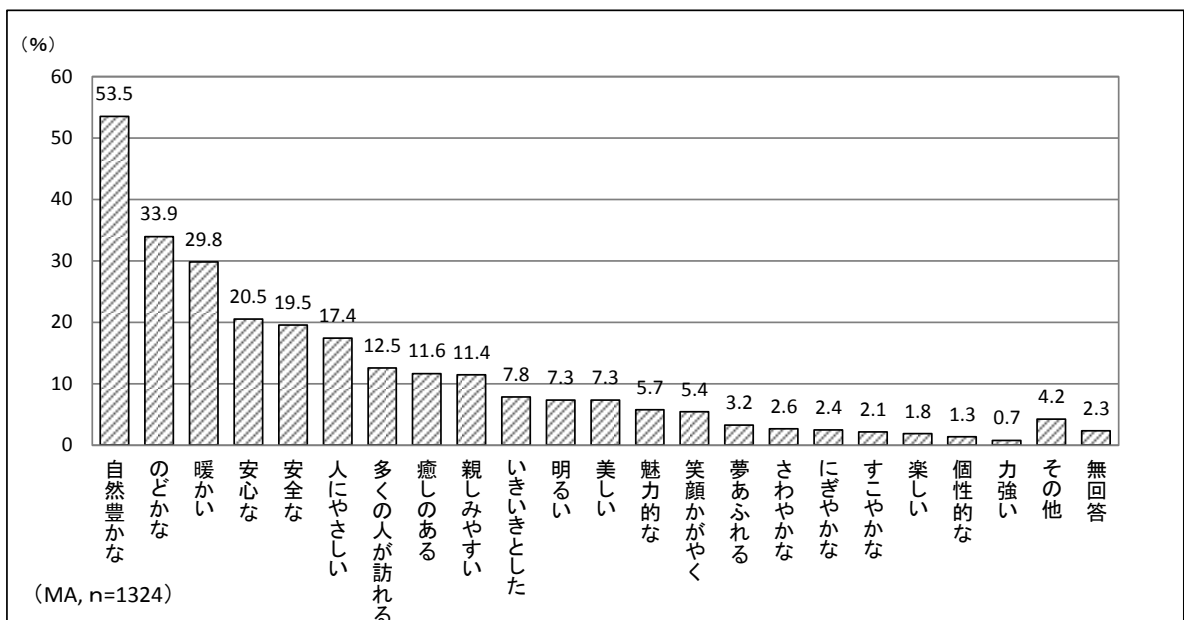
#### ① 館山市への愛着

館山市への愛着では、「愛着がある」(41.1%)、と「どちらかという愛着がある」(35.0%)を合わせると、「愛着がある」は7割を超えた。



#### ② 館山市の将来をイメージする言葉

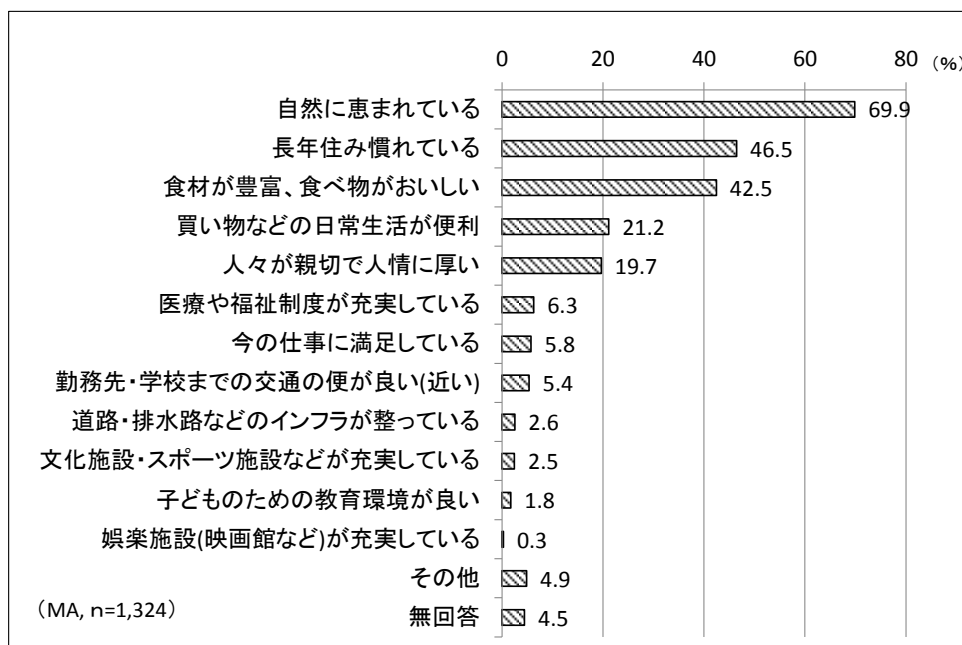
館山市の将来をイメージする言葉では、「自然豊かな」が最も割合が高く53.5%、次いで「のどかな」が33.9%、「暖かい」が29.8%などとなった。半数を超えたのは「自然豊かな」のみだった。



#### 4 館山市全体について

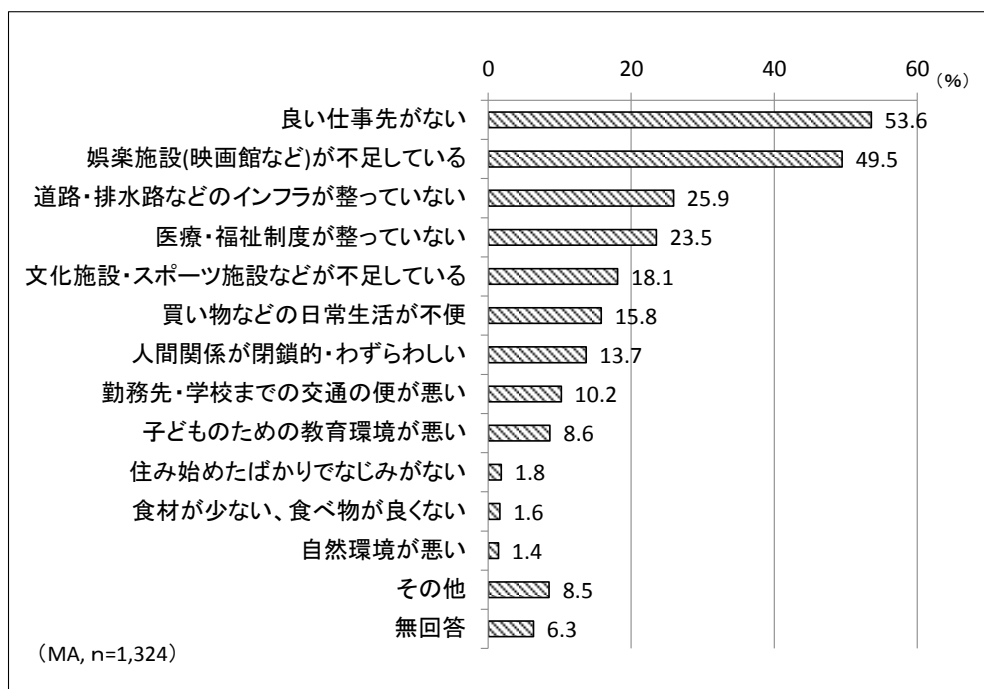
##### ③ 住みやすい点

館山市の住みやすい点では、「自然に恵まれている」が最も割合が高く 69.9%、次いで「長年住み慣れている」が 46.5%、「食材が豊富、食べ物がおいしい」が 42.5%などとなった。



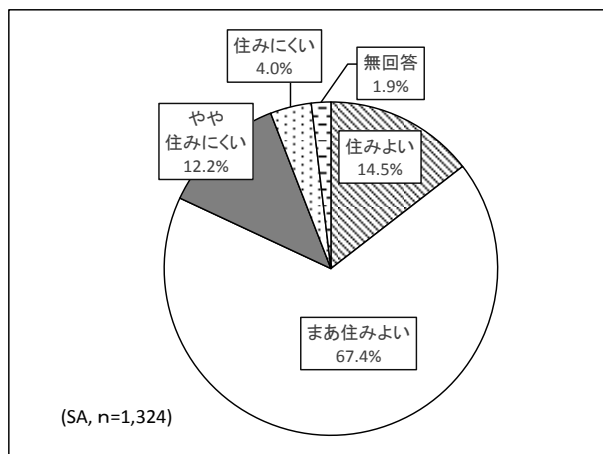
##### ④ 住みにくい点

館山市の住みにくい点では、「良い仕事先がない」が最も割合が高く 53.6%、次いで「娯楽施設（映画館など）が不足している」が 49.5%となり、この2つに回答が集中した。



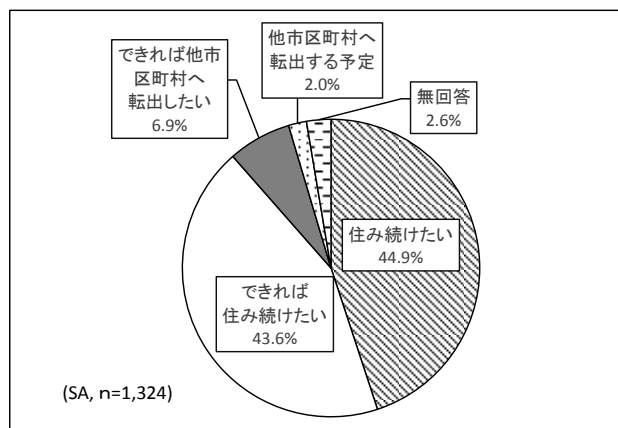
⑤ 住みごころ

館山市の住みごころでは、「住みよい」(14.5%)と「まあ住みよい」(67.4%)を合わせると、「住みよい」は8割を超えた。



⑥ 居留意向

居留意向では、「住み続けたい」(44.9%)と「できれば住み続けたい」(43.6%)を合わせると、「住み続けたい」は約9割となった。



「転出したい」と回答した者の転出希望先は「特になし・未定」が最も多く、次いで「東京都」、「神奈川県」、「南房総市」、「木更津市」などとなった。

※回答記入者のみ集計

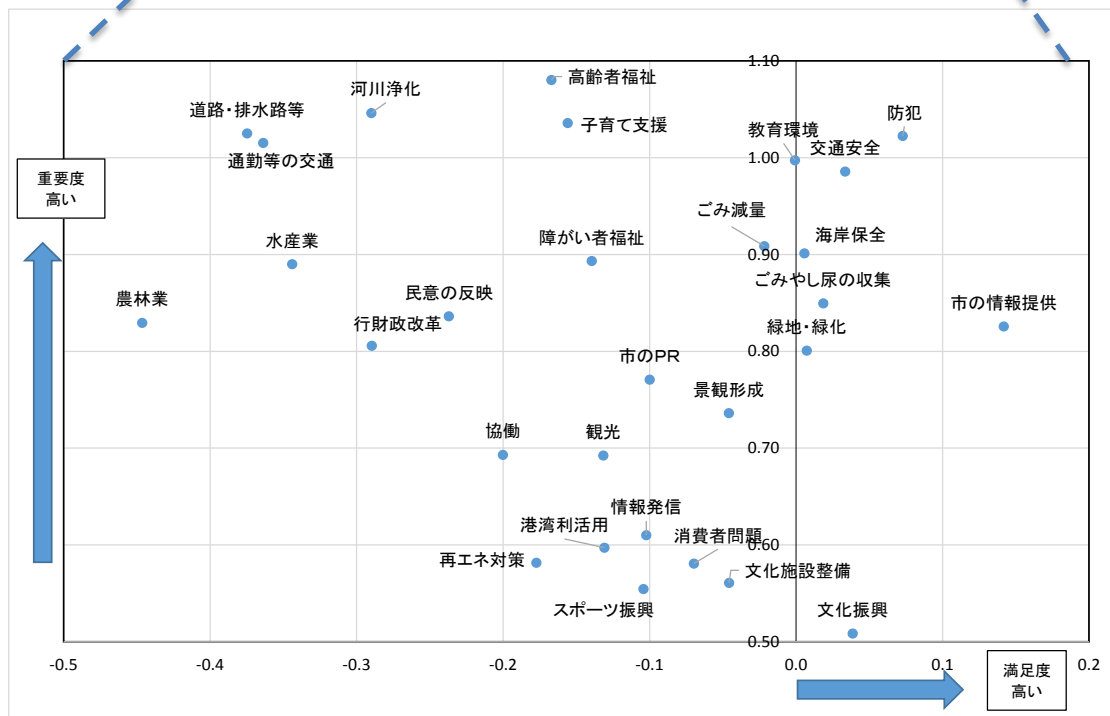
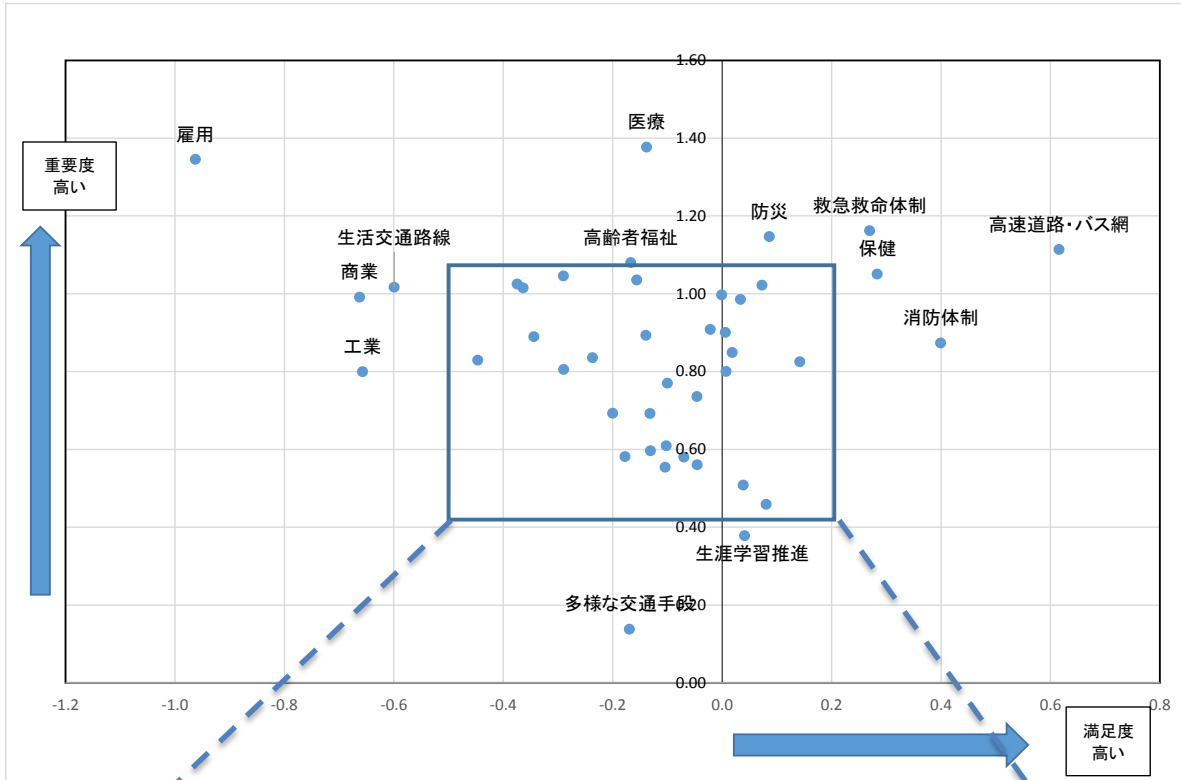
転出希望先	件数	割合 (%)
特になし・未定	17	19.1
東京都	11	12.4
神奈川県	9	10.1
南房総市	8	9.0
木更津市	7	7.9
県外	6	6.7
鴨川市	3	3.4
県内	2	2.2
千葉市	2	2.2
船橋市	2	2.2
都内	2	2.2
愛知県	1	1.1
宮城県	1	1.1
長崎県	1	1.1
埼玉県	1	1.1
山口県	1	1.1
山梨県	1	1.1
長野県	1	1.1
奈良県	1	1.1
青森県	1	1.1
都会	1	1.1
都市部	1	1.1
東京方面	1	1.1
関東圏内	1	1.1
千葉	1	1.1
故郷	1	1.1
館山市内	1	1.1
君津都市	1	1.1
海岸より遠いところ	1	1.1
税金の安い市町村へ	1	1.1
仕事次第	1	1.1
	89	100.0

⑦ 満足度、重要度

42の施策の重要度は、「医療」と「雇用」が高く、「救急救命体制」、「防災」、「高速道路・バス網」、「高齢者福祉」などが続いた。

満足度では、「高速道路・バス網」が最も高く、「消防体制」、「保健」、「救急救命体制」などが続いた。

重要度が高く満足度の低い施策は、「雇用」、「生活交通路線」、「商業」となった。



<前回調査との比較>

42の施策の満足度を指数化し、前回調査と比較すると、2施策を除くすべての項目において指数は上がっている。

また、指数がマイナスからプラスになった施策も9施策みられる。

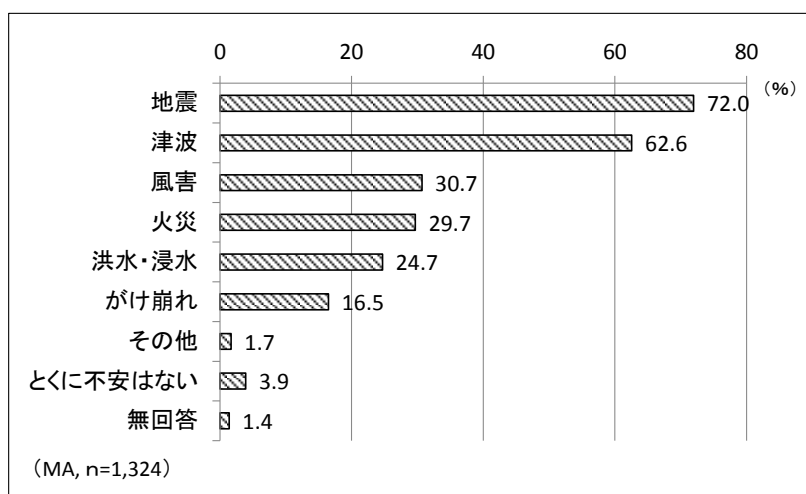
	施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
1	高速道路や高速バス網の整備	0.43	0.62	0.19
2	海上交通の開設など多様な交通	-0.35	-0.17	0.18
3	鉄道や生活バス路線の維持	-0.48	-0.60	▲ 0.12
4	周辺の道路や排水路等の整備	-0.45	-0.37	0.07
5	通勤や通学、通院等の交通環境	-0.37	-0.36	0.01
6	館山市のPRの強化	-0.16	-0.10	0.06
7	多様な情報発信手段の利活用	-0.24	-0.10	0.14
8	海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.22	0.01	0.22
9	館山港・館山湾の利活用	-0.32	-0.13	0.19
10	街並みの美しさや景観の形成	-0.25	-0.05	0.21
11	観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.43	-0.13	0.30
12	商業の振興	-0.81	-0.66	0.15
13	工業の振興	-0.88	-0.66	0.23
14	農林業の振興	-0.61	-0.45	0.16
15	水産・水産加工業の振興	-0.52	-0.34	0.18
16	雇用の創出	-1.19	-0.96	0.23
17	緑地の保全や緑化の推進	-0.16	0.01	0.17
18	河川や海域等の浄化	-0.42	-0.29	0.13
19	リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.21	-0.02	0.19
20	ごみやし尿の収集の改善	0.12	0.02	▲ 0.10
21	太陽光発電等エネルギー対策	-0.35	-0.18	0.17
22	幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.02	0.00	0.02
23	スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.13	-0.10	0.03
24	生涯学習や体験活動の推進	-0.04	0.04	0.08
25	図書館・公民館・博物館等の整備	-0.08	-0.05	0.03
26	文化・芸能の継承と振興	-0.06	0.04	0.10
27	医療の充実	-0.41	-0.14	0.27
28	検診や予防等の保健活動の充実	0.03	0.28	0.25
29	高齢者の福祉施策	-0.32	-0.17	0.15
30	子育て支援施策	-0.21	-0.16	0.06
31	障がい者の福祉施策	-0.26	-0.14	0.12
32	地域(コミュニティ)活動の支援	-0.13	0.08	0.21
33	消防体制の充実	0.18	0.40	0.22
34	救急救命体制の充実	-0.03	0.27	0.30
35	防災対策	-0.27	0.09	0.36
36	交通安全対策	-0.50	0.03	0.53
37	治安や防犯対策	-0.19	0.07	0.26
38	消費者問題への対応	-0.22	-0.07	0.15
39	市からの情報提供	-0.06	0.14	0.21
40	市民の声の市政への反映	-0.36	-0.24	0.13
41	行財政改革	-0.38	-0.29	0.09
42	市民と行政の協働の推進	-0.32	-0.20	0.12

※満足＝2点、やや満足＝1点、やや不満＝-1点、不満＝-2点として、回答者数で除して指数化した。

## 5 館山市の防災について

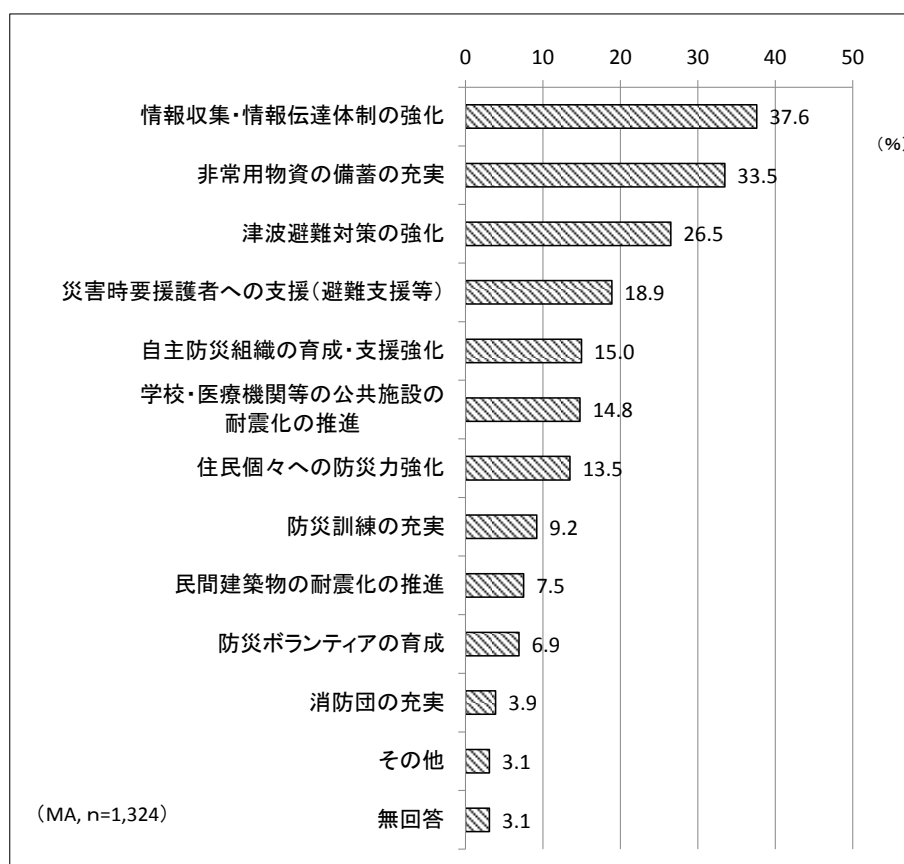
### ① 災害の不安

災害の不安では、「地震」(72.0%)と「津波」(62.6%)に回答が集中した。



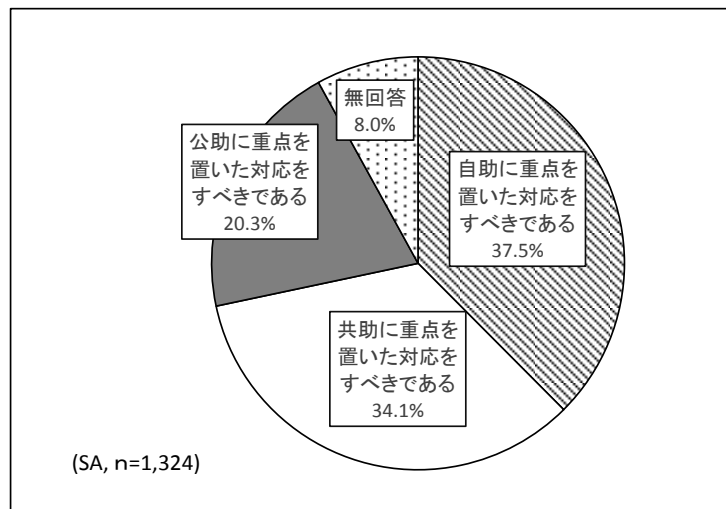
### ② 災害対策で重要な施策

災害に強いまちづくりで重要な施策は、「情報収集・情報伝達体制の強化」が最も割合が高く 37.6%、次いで「非常用物資の備蓄の充実」が 33.5%、「津波避難対策の強化」が 26.5%となった。



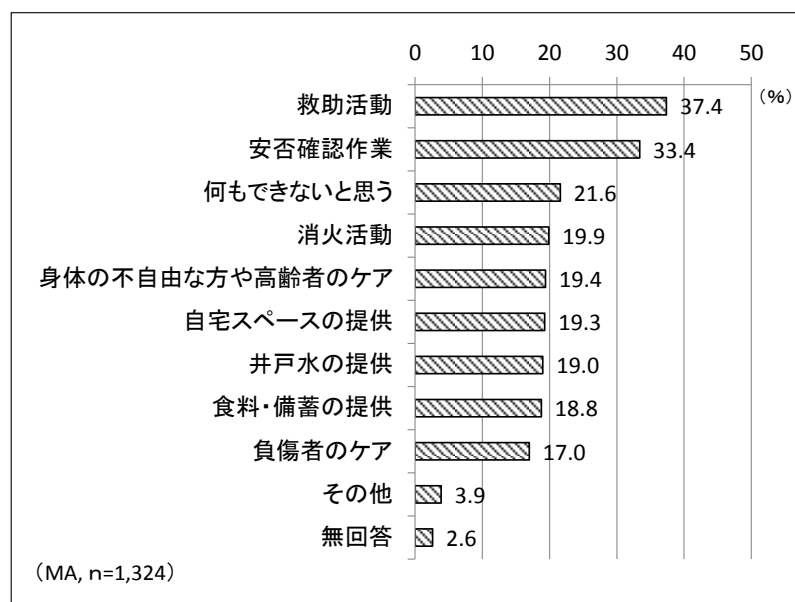
③ 「自助」「共助」「公助」について

最も重点を置くべきは「自助」(37.5%)、次いで「共助」(34.1%)となったが、その差はわずかだった。「公助」は最も割合が低かった。



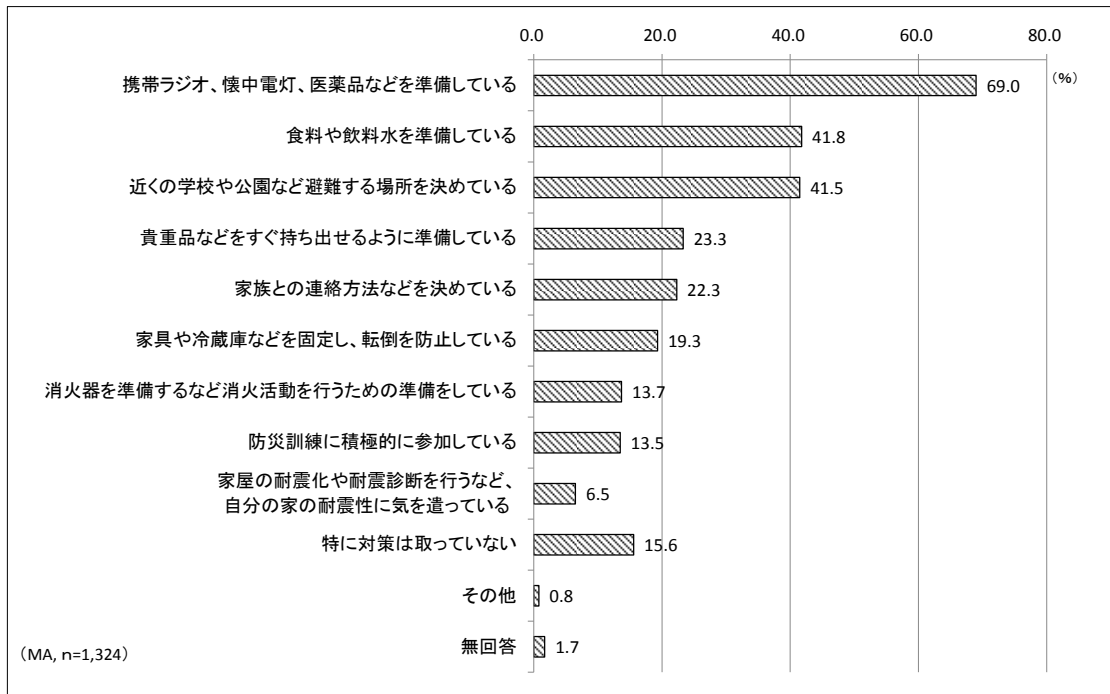
④ 災害時に自分にできる助け合い活動

災害時に自分にできる助け合い活動は「救助活動」が最も割合が高く 37.4%となり、「安否確認作業」が 33.4%と続いたが、「何もできないと思う」も 21.6%と3番目に高い割合となった。



⑤ 災害対策として行っていること

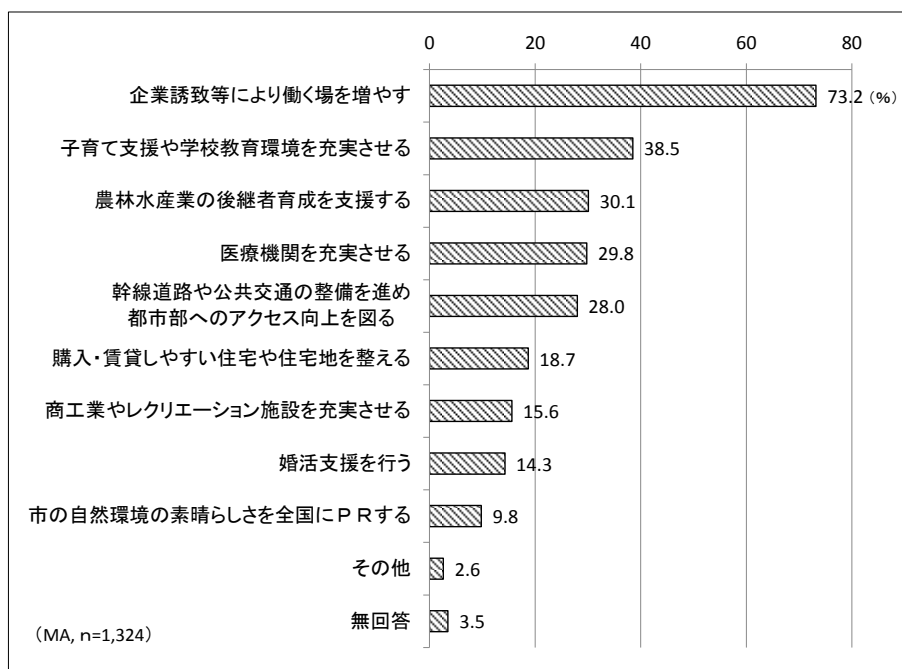
災害対策として行っていることでは、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が最も割合が高く 69.0%、次いで「食料や飲料水を準備している」が 41.8%、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」が 41.5%となった。「特に対策は取っていない」は 15.6%となった。



6 館山市の少子・高齢化対策について

① 若い世代の定住に必要なこと

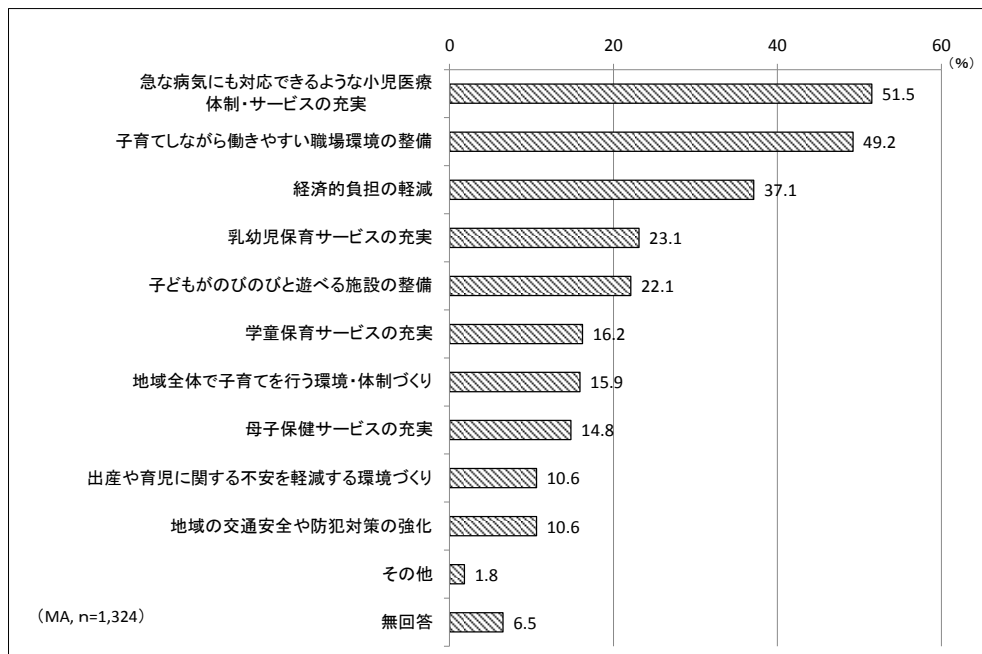
若い世代の定住に必要なことでは、「企業誘致等により働く場を増やす」が最も割合が高く 73.2%と、回答が集中した。次いで「子育て支援や学校教育環境を充実させる」が 38.5%、「農林水産業の後継者育成を支援する」が 30.1%となった。





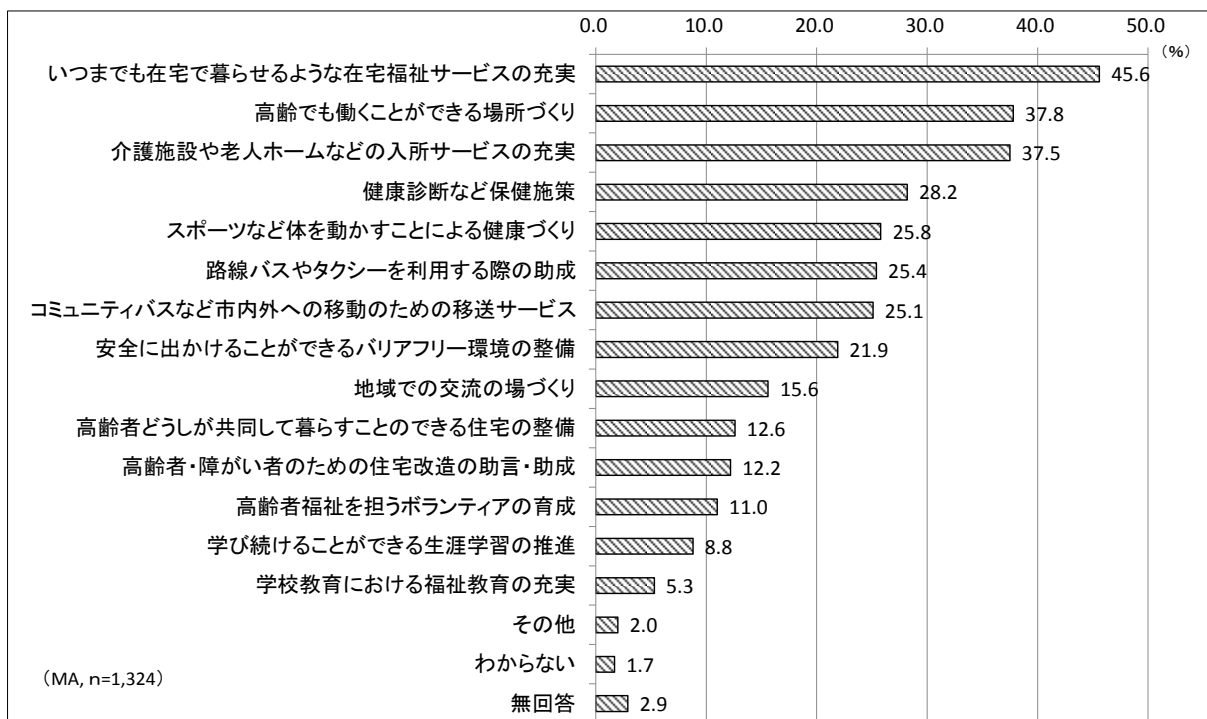
## ② 出産・子育て支援で重要な施策

出産・子育て支援で重要な施策は、「急な病気にも対応できるような小児医療体制・サービスの充実」が最も割合が高く 51.5%、次いで「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」が 49.2%、「経済的負担の軽減」が 37.1%となった。



## ③ 重要な高齢者施策

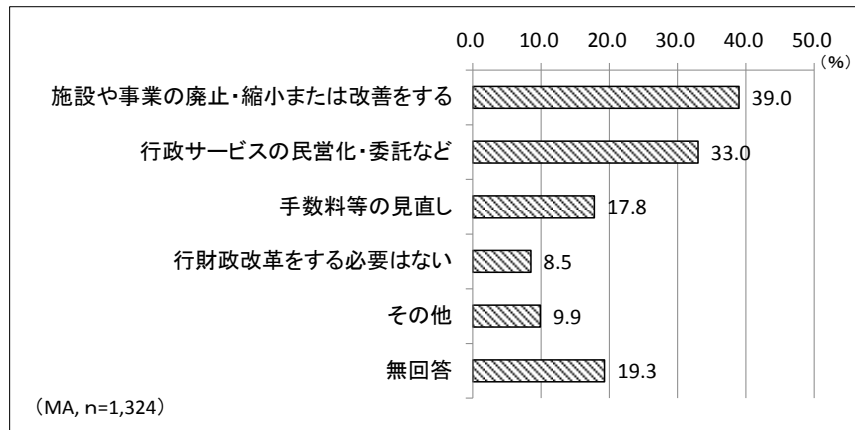
重要な高齢者施策では、「いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実」が最も割合が高く 45.6%、次いで「高齢でも働くことができる場所づくり」が 37.8%、「介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実」が 37.5%となった。



## 7 行財政改革について

### ① 行財政改革で必要なこと

行財政改革で必要なことでは、「施設や事業の廃止・縮小または改善をする」が最も割合が高く 39.0%、次いで「行政サービスの民営化・委託など」が 33.0%となった。「行財政改革をする必要はない」は 8.5%だった。



### ② 行政サービスと負担のバランス

行政サービスと負担のバランスでは、「負担を増やしてまで、サービスの充実を図る必要はない」は 44.9%、「サービス充実のためには、負担が増えてもやむを得ない」は 40.2%と、回答はほぼ二分した。無回答は 14.9%となった。

